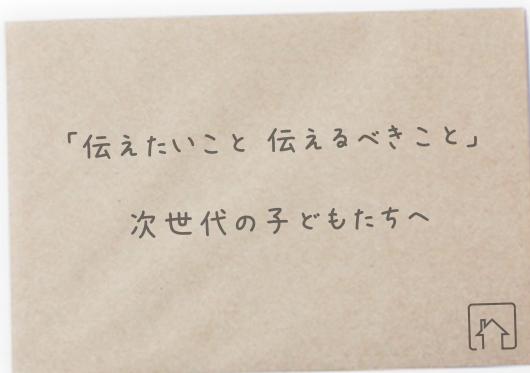


・ ・ ・ ・ ・

まちづくりのレシピ

Vol.2



「まちづくりのレシピ」は自分のまちにみんなの居場所をつくりたい、そんな人の為の冊子です。「さたけん家」ができるまでをまとめたVol.1に続き、今回は佐竹台でボランティアを行なう方々になぜボランティアをしているのか、次世代に伝えたいことは何かをお聞きしました！

『まちづくりレシピ vol.2』制作によせて



さたけん家はおかげさまで3周年を迎えることができました。多世代のコミュニティの場として生まれたこの場所は、居場所の仕組みづくりができ、年間1万人近い方に利用して頂ける場所となりました。そして今、さたけん家では、次世代の子どもたちのための仕組づくりを、青少年対策委員会と協力して行っています。

さたけん家3周年にあたり、vol.2を作成しようと思ったのは、これらの活動の基となる、“伝えなければいけない大事なもの”が、この町にはあると思ったからです。さたけん家を作ることで、たくさんの方の協力をいただき、その感謝の気持ちをvol.1にまとめました。そこで、vol.2では地域でボランティアをされている方に、二つの質問をさせて頂き、その声を聞き取らせてくれました。一つ目はなぜボランティアをしているのか、二つ目は次世代に伝えたいこと。また、ニュータウンの研究をされ、当プロジェクトにもご尽力いただいたいる鈴木先生には客観的な視点での寄稿をお願いしました。まちづくりのレシピを編集していただいている中島さんと紹介していただいた山崎先生のコメントもいただきました。

このレシピを読んでいただいた方に、この町にある“大事なもの”が伝わることを願っています。

佐竹台スマイルプロジェクト代表

水木 千代美

佐竹台：地域活動の両輪がある町



住宅地やマンションの住環境運営やコミュニティ活動の調査研究を続けてわかったのは、住環境が良好に運営され、地域社会が成熟・発展するためには、1)自治会・管理組合・PTAなどの公的な地域組織、2)NPOに代表される、特定のテーマや時々の課題に対応して活動する半公的なグループ、の両方が必要だということです。

佐竹台の地域活動を拝見して感じるのは、佐竹台もまたこの2種類の組織がしっかり存在している町だということです。ご存知のとおり、佐竹台は千里ニュータウンの12住区の中で、最初にまちびらきを迎えた千里のパイオニアとして、数々の自治会活動やラウンドテーブル形式による団地の建て替えの実現など、地域運営やまちづくりをリードしてきました。最近では、府営住宅の建て替えによって生まれた民間分譲マンションに、子育て支援の「おひさまルーム」を設置したことは、千里の他の住区でもぜひ参考してほしい特筆すべき事例です。そして、千里ニュータウン最初の本屋さんであるアカデミー書房のスペースを借りて生まれた「さたけん家」は、千里ニュータウン最初のコミュニティレストランです。数十人の主婦が日

替わりシェフとなって毎日ランチを提供できているのはたいへんな運営力だと感心します。カフェに加えて手作りマルシェや学習支援など、「さたけん家」は多様な地域活動の拠点になりつつあります。

これら「おひさまルーム」や「さたけん家」の実現に際しては、連合自治会と、佐竹台スマイルプロジェクト(SSP)、吹田市の綿密な連携があると伺っています。佐竹台では、いわば地域活動の両輪が支え合って活動しているのです。

建築・都市計画の研究者として佐竹台にはたいへん多くのことを教えていただきました。益々の発展を楽しみにしています。

鈴木 毅 先生

Takeshi Suzuki



近畿大学建築学部教授。佐竹台スマイルプロジェクトに学生とともに参加してもらっています。居場所研究の第一人者です。

私がわくわくする程魅力を感じて、
取り組みたい命題がここにあったのです。



1962年、千里が東洋で一番最初のニュータウンとして開発され、その4年後の66年、私は運よく佐竹台に入居してきました。新しいまち、そして全く未経験の生活様式など、新しいことづくめの生活が待っていました。それから約30数年、ニュータウンは第2のまちづくり期に突入します。時代や生活様式の変化はもとより、構造物の老朽化、少子高齢化への対応など、様々な難問の解決に迫られて行きます。実は、私がわくわくする程魅力を感じて、取り組みたい命題がここにあったのです。題して『第2のまちづくり再生』です。

特に1丁目公社住宅の再生については、十数年前の計画提示の段階から関与することができました。だからこそ、団地住宅のオープン化や緑の広場の設置、遊歩道や屋上緑化の実現、花壇の新設、高齢者の孤立・孤独の解消を願った「佐竹台サロンの開設」など、前代未聞のきめ細やかな「まちづくり」が実現したのです。なぜそこに取り組みたかったか、その理由は、新しい街の形を次世代に伝えたかったからです。今、花壇の間を歩いて駅に向かう方々、サロンで交流する方々を見ると、次世代に大切なものを少しは継承できたのではと思っています。

今、あらゆる地域で自治会離れが起つつあると言われます。これについても私たちは、新たな手立てを考えつつ、人と人とのつながりの「質」を次世代に伝え、希薄になりがちな人間関係をどう深めていくかを、使命の一つとして取り組んでいます。私たちの子ども世代、孫世代と一緒に町づくりを行うことが、多世代を繋ぎ、子どもから高齢者までが暮らしやすい町をつくっていくのです。

ぜひ、できる範囲で町のことに関わって頂きたいと思います。それが、常に新しく進歩し続ける町の原動力になるのです。

谷川 一二 さん

Kazuji Tanigawa



佐竹台連合自治会の会長を長年務める。独居老人の孤独死を防ぐための「佐竹台サロン」を開設するなど、新しい自治の形を作られている。



人のためにしたことは必ず自分に返ってくるから、
できることをまずはやってみて欲しい。

死ぬまでに一つくらい良い事をしようかな
と思ってボランティアをしています(笑)。
人とのつながりが楽しいし、やりたいか
らやっています。5人の子どもを通じて、
たくさんの人と繋がることができて、その大切さに気付いたと思います。

子どもたちに伝えたいことは、文化かな
…“無駄なこと(金銭的メリットがないこ
と)”をする文化を伝えたい。人のために
したことは必ず自分に返ってくるから、
できることをまずはやってみて欲しい。
そして、やってみたいと思ったことをま
ずは始めて欲しい。

大人たちに伝えたいことは、子どもたち
のやりたいと思う意欲を育むために、子
どもたちが考えたことを実現するため
の、サポートしませんか、無理せず楽しく
やってみませんか、ということかな…
と一緒にどうぞ！

浦濱 祐一 さん
Yuichi Urahama



小中学校のPTA会長をはじめ自治会、青少年対策
委員会などの役員、委員長などを務める。



ボランティアをしているのは
なぜですか??

次世代に伝えたいことは なんですか??

ボランティアは趣味の延長として、
仕事を優先させつつ空いている範囲で受けています。

はじまりは小学校のPTA会長を受けたことです。それまでにボランティアの経験はないし、PTA会長として地域に関わり始めた時も、地域からの要望に対して“PTAを要求から守らなあかん!!!”という風に思ってた(笑)。

しかし、いろいろと地域と関わって行く中で、“地域と一緒に協力してやっていくもんなんやな～”と気づいたわけです。これは輪の中に入ってみないとわからないことかなと思います。PTA会長の後に、Nさんというお世話になっている方に青指を頼まれて、断れず受けました(笑)。それから6~7年しました。

ボランティアは趣味の延長として、仕事を優先させつつ空いている範囲で受けています。自分にできることがみんなの役に立って、知っている人が笑顔になってくれると嬉しい。

紆余曲折があっても、目的意識を持って成し遂げる力、楽しめる力を一人一人が持つて欲しいと思います。例えて言うなら“中学や高校の文化祭のノリ”。子どもたちには、やってみたい!ということがあった時は、仲間に話す、頼る、大人に相談するなど動いてみてほしい、そして大人は子どもたちの思いを受けて応援してほしいと思います。隣の子、他所の子を気に掛ける大人が増えていってほしいと思っています。

咲間 稔一さん

Koichi Sakuma



音楽関係のお仕事をされている咲間さん、地域の運動会や夏祭りなどの音響ボランティアをされています。

ボランティアとか仕事とかは関係なく、
誰かの役に立つ人になってほしい。



人と接するのが好きだから。自分がその日できることをしているだけで、苦にはならないんです。自分が元気な間は続けたいと思っています。生まれたところが人のつながりのあるところだったからかな…自分の食べ物がなくても困っている人がいたらあげる母をすごいなと思いながら育ちました。



相手にわかってもらうために、
伝わる言葉を選ぶことも大事。

小さい時から人には親切にするものだと親に育てられました。そのせいか、困った人や弱っている人を見ると自然と体が動いてしまうんです。自分にできることがあれば引き受けて、少しでも明るく住みやすい地域にできればと思って



太治 利昌 さん
Toshiaki Taji

40代で民生員を受け、その後福祉委員会の長を務める。おたのしみ塾を主宰。障がい者や高齢者、子どもたちに手品などを披露する活動も行っている。

ボランティアとか仕事とかは関係なく、誰かの役に立つ人になってほしいということかな…人の繋がりを大事にして、思いやりのある子どもたちに育ってほしい。いつも明るく過ごして欲しいと思っています。

木下 すずえ さん
Suzue Kinoshita



佐竹台地区の防犯協議会の長として、日々のパトロールをはじめ、地域の防犯活動を行っている。

います。人に喜んでもらえることは充実感や達成感を生みます。

続けられる秘訣は楽しく行うこと。一人でできることは限りがあるし、チームだからできることもある。だから相手にわかってもらうために、伝わる言葉を選ぶことも大事。

興味を持ってもらって、できることをしてもらえるような仕掛けづくりをして、ちょっとボランティアをしてもらえるような働きかけをしていけば関わってくれる人が増えると思いますよ。

編集後記



初めて佐竹台を訪れてから今日までデザインやワークショップなど様々な支援をさせて頂きましたが、ボランティアをしていると感じた事は正直一度もありません。(笑) 半人前にも満たない学生の僕に、メールの打ち方から仕事のノウハウを教えて下さったのは、声をかけてくれた水木さんでした。そして、その制作の先には必ず子どもたちの笑顔がありました。これは僕にとって十分過ぎる、労働への対価だと思っています。

山崎 亮 先生
Ryo Yamazaki

studio-L 代表、コミュニティデザイナー。京都造形芸術大学教授。私(水木)の卒業大学の縁で中島さんを紹介して頂きました。

このプロジェクトの支援を受けた子どもたちが、将来は子どもを支援する大人になることを願っています!!!

僕が次世代の子どもたちへ伝えたいのは“働く”を経験できる場所は思いのほか近くにあるということです。そこでは普段得られない“大切な何か”を見つけることが出来ると思います。

中島 敦貴 さん
Atsuki Nakashima



ROCA (デザイン事務所)代表。さたけん家や佐竹台小学校50周年のグラフィックデザインなどを担当。まちづくりレシピの作成もしていただいています。

まちづくりのレシピ Vol.2 「伝えたいこと 伝えるべきこと」

発行:佐竹台スマイルプロジェクト実行委員会 Designed by ROCA / Atsuki Nakashima